

平成 22 年度支援 Web システム報告

学習サポーター制度支援 Web システムの発展的構築として、以下のことを実施した。

(1) 報告書作成・事例データベースサブシステム：

1) 学習者の出欠・サポーターアンケートの自動統計処理を含む統計システムの改善(サポーター制度評価への利用)

学習者の「出席統計」及び学習サポートに関する「人数統計」「支援報告書統計」を整備した。また、サポーターアンケートを Web システム上で実施し、一定の自動処理を行えるようにした。

2) 学習者・サポーター・教員によるサポートコミュニティの活性化を目的としたシステムの改良(相互のやりとりの円滑化)

「対象学生・サポーター・教員相互間の関連付け機能」を追加した。これにより、システム上での“学習に関するやりとり”をシステム内に蓄積する。この“学習に関するやりとり”とは、対象学生の学習に対するサポーターや教員のアドバイス、及びその学習やアドバイスに関するアセスメントを内容とする。“学習に関するやりとり”がシステム上で記述された際、関係者に、システムからメールでそのリマインダーを送信する。

(2) FD支援サブシステム：

1) 教員オフィスアワー（質問受付可能時間帯）参照・予約システムの構築

学習支援報告書登録時に教員へのオフィスアワー（質問受付可能時間帯）予約メールを Web システム上より発信できるようにした。オフィスアワーの公開されている教員にはその時間帯の都合を、そうでない教員には都合のよい時間帯を問い合わせる。

〔例〕 オフィスアワー公開教員へのメール（個別学習サポート）

メール件名：
学習サポート対象学生から質問時間予約のお願い

メール文面：
〇〇先生
学習サポーター 経営情報システム工学、M1、〇〇
サポート対象学生 経営情報システム工学、B2、〇〇
ご担当の「□□」の学習サポートを実施している中で、対象学生から先生への直接の質問希望がありました。
(質問の内容)
△月△日△曜日の△：△（オフィスアワー時）に質問に伺いたいと思います。ご都合がよろしいかどうかお知らせ下さいませでしょうか。
ご多用中すみませんが、よろしく願いいたします。

2) 学習者のつまずきの時系列データベース化、つまずき事例閲覧システム構築(FDへの利用)

「つまずき事例閲覧システムの機能」を追加した。これにより、対象学生がサポーターに相談した問題を、“つまずき”の事例としてシステム上に時系列的に蓄積する。この“つまずき”とは、対象学生が学習上解決すべきと自身で認識し、サポーターに相談する個人的な課題を指す。科目担当教員にとって、授業進行に沿って時系列的に蓄積される履修者の“つまずき”は、授業改善のポイント(対象事例)であるとも言える。このような授業改善の対象事例としての“つまずき”の蓄積は、組織的な教育改善(FD)の事例としても活用が可能である。また、このような事例は、他学生にとっても、他学生がつまずいた(自身にとっても検討が必要な)事例として有益な情報を含む。

(3) 個別教育・自己学習支援サブシステム：

1) 学習サポートにおける「個別の教育支援計画」作成支援システムの構築

「個別の学習プロセス作成支援システム」(上記(1) - 2)と(2) - 2)とを含む)を制作した。学習支援報告書の内容を向上させ、学生の教育への有用化を図るために、サポーターの報告内容を3つに分け(つまずき・課題/サポーターの対応/サポーターの評価)、より具体的で詳細な報告がなされるようにした。また、科目担当教員が、実際に学生を指導したサポーターへの連絡やサポーターの対応の評価、報告書の項目のカスタマイズをすることなどを可能とした。

2) 学習者自身が利用する学習ポートフォリオの作成支援システム構築

「学習ポートフォリオ作成支援システム」の機能を追加した。これにより、対象学生自身の自学自習での学習記録、および、学習記録のつらなりである学習履歴の作成を可能にした。ここには、サポーターが作成したサポート記録も、対象学生自身の学習履歴の一部として取り入れることができる。これにより、自学自習と、サポーターや教師との協働学習を関連付け、統括的な学習ポートフォリオの作成を支援する。

以上の支援 Web システム構築・改良により、学習サポートに関するデータが迅速に整理され、また対象学生の学習履歴にも反映でき、データを制度評価に利用しやすくなった。また、教員へのオフィスアワー(質問受付可能時間帯)予約メール送信機能により、教員・サポーターが共同で学習支援に当たる環境の整備が進んだ。さらに、「個別の学習プロセス作成支援システム」により、より詳細な学習支援の報告を蓄積し、教員・サポーター・学習者相互のやりとりを伴いつつ、科目対応の事例を個別の教育支援に役立てることが可能となった。また、「学習ポートフォリオ作成支援システム」において、学習者自身の自学自習の記録の中にサポート記録を取り入れ、活用することができるようになった。

以上